

平成23年度八王子市立小学校使用教科用図書調査研究報告書（選定資料作成委員会）

種目 国語 (1 / 2 枚目)

発行者名 調査の観点	東京書籍	学校図書	三省堂	教育出版
<p>1 内容 (1) 児童の発達段階に対する配慮がある。 (2) 学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮している。 (3) 各学年にわたる内容の取扱いに対して配慮している。 (4) 児童の意欲、関心を引き出す配慮がある。</p>	<p>(1) 発達段階への配慮が見えるが、第1学年の下になると内容が急に多くなり、字も小さくなり、一部発達段階に合わないものがある。 第1学年最初の物語教材が長く、発達段階に合わない高度な教材が見られる。 (2) めあてが具体的に分かりやすいが、内容では心情を捉える教材作品の取り扱いが弱い。 (3) 各領域の系統性を意識した構成になっている。 各領域の教材並びに伝統的な言語文化の教材バランスがよい。 (4) 身近で面白い題材がある。</p>	<p>(1) 入門期の導入が丁寧で分かりやすさの大きさがよい。 各学年の教材も発達段階に配慮しているが、第1学年最初の説明文はやや難しい。 (2) 各学年ごとに目標が明確に提示され、分かりやすい。 (3) ねらいをはっきりさせて単元が組まれている。 学年ごとに読ませたい詩、物語、説明文が適切に配置され、各領域の言語活動が系統付けられている。 (4) 児童の生活に密着した題材が多く、児童の興味・関心を引き出す教材の工夫がある。</p>	<p>(1) 入門期最初の文字が小さく、口形や姿勢の指導の取り上げ方がやや弱い。 第6学年導入部分の教材配列は児童の発達段階に合わない。 (2) 2分冊構成により、各学年の目標・内容を押さええている。 各単元のねらいが具体的にでなく、内容も分かりづらいので工夫が必要。 (3) 別冊「学びを広げる」を含めると、しっかり押さえられている。 (4) 児童にとっての身近な話題が少ない。(特に高学年の話す・聞く)。 別冊は内容が充実していて魅力がある。 児童に人気のある漫画を取り入れているが、全体的に色使いが原色でチラチラする。</p>	<p>(1) 入門期導入に配慮が見られるが、漫画的であるとともに、登場するのが動物であることが児童のイメージにそぐわず、入門期の導入に合わない。 (2) 単元ごとのめあてが明確である。 言葉についての学習内容が充実していて、各領域のバランスがよい。 (3) 内容は少し高度であるが、「書くこと」については内容が充実している。 学習の手引きが多岐にわたります。 (4) 色彩が明るく物語等も児童の興味を引くものが多い。</p>
<p>2 構成及び分量 (1) 内容の組織配列及び発展的記述に対して配慮している。 (2) 各領域の分量について児童の発達段階を十分に配慮している。 (3) 教科の特質に即した主要教材において基礎的事項をおさえ、補充教材並びに発展教材等の取扱いに対して配慮している。</p>	<p>(1) 読みの教材から読書への広がり、読む 書くへの発展への配慮がある。 (2) 分量が程よく、各学年が「同時期に同じ領域の学習を行える。」各領域がバランスよく配列されている。 (3) 発展教材は充実しているが、主要教材・補充教材とのつながりがなく、「言葉の世界」、「漢字の表」は分かりやすい。 補充教材(付録)は物足りない。</p>	<p>(1) 各単元に複数領域の関連学習が生まれ、漢字の学習を4回に分けて定着を図るなど、内容の配列がよい。 説明文が二教材構成になっていて指導の定着を図っている。(基礎活用) 上巻の漢字の量がやや多く児童の負担感がある。 (2) 各領域がバランスよく配置されている。 発達段階ごとに読みの視点が明確にされている。 (3) 各学年に適切な主要教材を配置しているが、主要教材が多く、どこに比重を置いて指導するかが分かりづらい面もある。 補充教材(資料編)が全学年充実している。</p>	<p>(1) 第2学年以上は、2冊同時に持ってく場合もあり、児童の負担感が大きい。 系統性が分かりづらく、文作りや書くことの指導が少ない。 (2) 各学年・各領域ともに教材の分量は適当であるが、じっくり読み深い作品というよりも短い文章が数多くある。 (3) 分冊で古典や読書指導を取り上げるなど、補助教材、発展教材が充実していて、自主的な学習につなげやすい。</p>	<p>(1) 入門期のひらがな学習で、「つ」「くし」の前に「あいうえお」がでているので工夫が必要。 第1学年最初の物語文は量がやや多い。 (2) 言語事項を意識的に増やしている。 単元のめあてが多い。 物語、説明文が量的に少ない。 「聞く・話す」単元がやや少ない。 一つ一つの領域は押さえられているが、活動を伴う単元が多い。 (3) 主要教材から発展教材へつなげて構成している。 補充教材付録(言葉のとびら)が全学年充実している。</p>
<p>3 表記及び表現 (1) 児童にとって読みやすい表現である。 (2) 印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすい。</p>	<p>(1) 文字の大きさや濃さが適切である。発達段階に配慮した読みやすい表現になっている。 (2) 全体的にシンプルにまとめているが、各単元名が目立たず、区切りが悪い。 表紙の色が濃すぎる。中高学年の挿絵は漫画的であり、題材に適していないものがある。</p>	<p>(1) 字の大きさ、太さ、書体などが工夫され学習のねらいも分かりやすい。 調べる言葉や文作りをする言葉が欄外にあり分かりやすい。 「話す・聞く」領域は選材から発表、交流にいたる活動の流れがイラストや図表を使い分かりやすく示されている。 (2) 題材に適したイラストや写真を効果的に配置し児童の興味・関心を引き出す工夫がある。 全体的に明るく(柔らかい)感じがする。 特に入門期の絵は効果的だが、最初の説明文の写真はリアルすぎる感がある。</p>	<p>(1) 指示や大切な部分が分かりやすく読みやすい表現になっている。 入門期の文字が小さく読みにくい。 (2) 挿絵が漫画的で国語に適さない。 話題の多さと写真の大小、色使いや挿絵など、ページを開いたとき、情報が多さに落ち着きの無い感じを受ける。 表紙がりんごの絵で単調であり、原色が多くきつい感じがする。 表紙に国語的な楽しさがほしい。 入門期の挿絵に統一性がほしい。</p>	<p>(1) 読みやすい表現になっている。 高学年ではやや字間が狭い。特に、第6学年では二段形式になっている教材もあり、文字も小さい。 (2) 分かりやすく効果的で色使いもよいものもあるが、写真の色使いが不自然であり、挿絵も魅力に欠け、やや漫画的である。 第1学年の説明文の写真はきれいではない。</p>
<p>4 使用上の便宜 (1) 全体の構成が見通せるように配慮している。 (2) 課題発見、課題解決に向けた学習が効果的に進められるように配慮している。 (3) 印刷・装丁に対して配慮している。 (4) 地域性に対して配慮している。</p>	<p>(1) 第1学年上の目次が巻末にあるため、全体の構成を見通しにくい。 教材の初めにねらいを掲げていることは見通しをもって学習に取り組める。 (2) 課題発見や解決に向けた学習が配慮されている。 (3) 従来の用紙より軽い。 厚さがあっても負担感が少ない。 写真の色が鮮明。 (4) 地域性に対する配慮は特に見られない。</p>	<p>(1) 目次は活動が色分けされ、全体の構成が見通せる。 (2) 学習のめあてが明示され、児童が課題をもちやすい。学習方法を学び、その後実際の学習の中で使えるように題材が配置されている。 「保護者の方へ」のページは、家庭との連携を提示している新しい試みである。 (3) 全体的に落ち着いた色調になっていて、文字も読みやすい。 中学年の表紙のイラストは少し幼稚である。 (4) 八王子に近い軍道紙の作業の様子が取り上げられている。</p>	<p>(1) 第1学年上の目次が巻末にあり、また、目次に領域の表示がない。 全体の構成を見通すことができる工夫がほしい。 (2) 「書く」領域の教材提示は何を書かを決める手だてに工夫が必要。 (3) 印刷はよい。 装丁もシンプルである。 (4) 地域性に対する配慮は特に見られない。</p>	<p>(1) 目次がまとまっていて見やすく、全体の構成が見通せるが、単色なので、一目では分かりにくい。 (2) 指導事項が明確に示されている。 (3) 落ち着いた色使いである。 (4) 文学碑「夕焼け小焼け」が取り上げられている。</p>
<p>5 総合所見 (1) 教科の指導及び児童の学習活動の視点から総合的にみてどうか。 (2) 現在八王子市で使用している教科用図書と比べてどうか。</p>	<p>(1) 各領域の学年の系統性に配慮して構成されている。 入門期の教材は児童の興味・関心を引き出す工夫がほしい。 高学年の教材提示はよいが、「話す・聞く」「書く」領域の教材は意欲を引き出す工夫がほしい。随筆を取り上げている。 (2) 教材に新しい発展がありよいが、今まで、親しんできた文学教材が少ない。 児童の関心・意欲を引き出す工夫がもう少しほしい。</p>	<p>(1) 全体的に活動内容が明確に提示され、児童が楽しみながら意欲をもって取り組める工夫がされている。 物語教材の選択もよく、児童の心情を育む題材設定になっている。 伝記を取り上げている。 第1学年最初の説明文はやや難しい。 (2) 各領域がバランスよく配置されていて、児童の意欲を引き出す教材の工夫がある。</p>	<p>(1) 物語教材、説明文等がやや少ない。 「書く」領域の教材が少なく、児童の身近な題材になっていない。 (2) 2冊構成は、使いづらさがあるのに加え、持ち物が増えることによる児童の負担が大きい。 別冊「学びを広げる」は、用語集があり充実している。</p>	<p>(1) 物語、説明文の数は少ないが、伝記、論説文などを取り上げている。 学習内容が適切に配置され、説明が分かりやすく、課題意識を育てる工夫がある。 学習活動の設定が多く、学習の手引きが盛りだくさんで、やや高度である。 (2) 題材は現行とあまり変化なし。 今まで使っているので、より深い教材研究ができる可能性がある。</p>

発行者名 調査の観点	光村図書
<p>1 内容 (1) 児童の発達段階に対する配慮がある。 (2) 学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮している。 (3) 各学年にわたる内容の取扱いに対して配慮している。 (4) 児童の意欲、関心を引き出す配慮がある。</p>	<p>(1) ・入門期の学習がやや高度で配列に工夫が必要。 ・口形・姿勢の指導をもう少し強調してほしい。 ・第1学年の上巻で学ぶ文字が多く、ひらがなの習得前に文を書く指導があるが、入門期以外は発達段階に対する配慮がある。 (2) 学習のまとまりごとに身に付けたい力が明確である。 (3) 「読む」教材が多く内容が充実している。 (4) ・学習活動の手順は文章表現が多く、児童の活動意欲に結び付きにくい。 ・内容豊富で深いが、高度なので児童の意欲を引き出す工夫が必要である。</p>
<p>2 構成及び分量 (1) 内容の組織配列及び発展的記述に対して配慮している。 (2) 各領域の分量について児童の発達段階を十分に配慮している。 (3) 教科の特質に即した主要教材において基礎的事項をおさえ、補充教材並びに発展教材等の取扱いに対して配慮している。</p>	<p>(1) ・説明文が二教材構成になっていて指導の定着を図っている(基礎活用へ)。 ・発展的教材に配慮している。(読む 書く) ・高学年の教科書を中学校を視野に入れ、復習もしやすいように一冊にまとめて構成しているのがよいが、逆に、分量の多さに意欲を欠く心配がある。 (2) 読む教材が充実しているが、物語文がやや多く、「書く」の分量が少ない。 (3) ・基礎 発展のつながりがよい。 ・補充教材(学習を広げる)の第5・6学年が充実している。</p>
<p>3 表記及び表現 (1) 児童にとって読みやすい表現である。 (2) 印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすい。</p>	<p>(1) ・学年に応じて文字の大きさや量を工夫しているが、高学年は字が小さく、読みづらい。 ・学習のめあてに具体性がほしい。 (2) ・内容の理解を助ける挿絵が少なく、詩などには挿絵がない箇所も見られる。また、挿絵が漫画的で国語には適さないものもある。 ・詩の挿絵には深みがあり、色もきれいだ。</p>
<p>4 使用上の便宜 (1) 全体の構成が見通せるように配慮している。 (2) 課題発見、課題解決に向けた学習が効果的に進められるように配慮している。 (3) 印刷・装丁に対して配慮している。 (4) 地域性に対して配慮している。</p>	<p>(1) 第1学年の目次が巻末にあり分かりづらいが、高学年は全体の構成が見通せる表ができていてよい。 (2) ・学習の進め方などが示しており、効果的に進めることができる。 ・学習は単元ごとに記述されているが、児童の主体的な活動を促す、身近な内容設定の工夫が必要。 (3) 印刷、紙質について配慮がある。 (4) 地域性に対する配慮は特に見られない。</p>
<p>5 総合所見 (1) 教科の指導及び児童の学習活動の視点から総合的にみてどうか。 (2) 現在八王子市で使用している教科用図書と比べてどうか。</p>	<p>(1) ・物語教材は充実し、児童の心情を育てる視点が見られる。 ・発展教材を意識的に取り上げているが、分量がやや多い。 ・入門期の学習が高度であり、きめ細やかさにも欠ける。 (2) ・入門期の題材がやや高度であるが、高学年の物語教材は充実している。 ・高学年の一冊合本は分量の多さを感じさせるが、1年間の学習を振り返ることができる。</p>